

テーマ「つながり」／旅先の変な日本語／旅人からの伝言  
特集 アメリカ／エッセイ「旅トキドキ」／一本の糸で世界をつなぐチャリの旅／一人旅卒業後、ミャンマー留学／  
HANGOVER in the WORLD／自炊派の手料理／エッセイたびたべ／アジア漂流日記／個人旅行のコモディティ「語学留学」 他

旅人（バックパッカー）が書き、旅人が読む、旅人のための旅ライフフリーペーパーマガジン

# Bravelli

Vol. 12

Photo(C)長谷川正吾

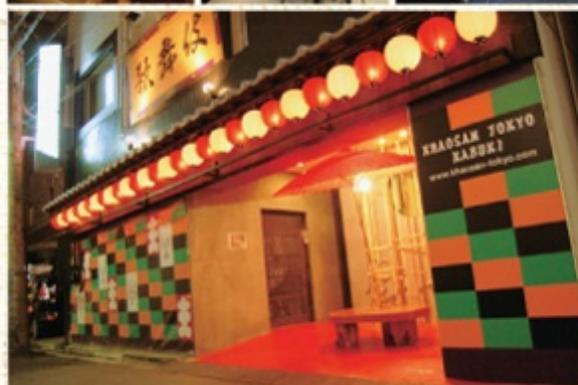


# Khaosan Tokyo Guest House

<http://www.khaosan-tokyo.com/ja/>

日本で海外の気分を楽しめる!

カオサン東京ゲストハウスは、東京、京都、福岡、別府に計8つの店舗を展開しています。  
国際交流をしたい! 安く快適に泊まりたい! 楽しくにぎやかに滞在したい方!  
観光、就職活動、一人旅等、あらゆるお客様に満足していただける宿泊施設です。



**TOKYO**

**NINJA**

1泊/2200円~

**ORIGINAL**

1泊/2000円~

**SAMURAI**

1泊/2500円~

**ANNEX & SMILE**

1泊/2000円~

**KABUKI**

1泊/3000円~

**KYOTO**

1泊/2000円~

**BEPPU**

1泊/2000円~

**FUKUOKA**

1泊/2400円~

# THIS IS YOUR BACKPACKER

旅人の数だけ違った  
スタイルがあっという。

これはあなたのバックパッカーライフです。

# LIFE.

バックパッカーで旅をするって特別なことですか？あなたは旅バカですか？  
もしあなたがクローゼットの中にあるバックパックに想いを馳せるなら「旅バカ」です。  
苦楽を共にしてきた数々の相棒を捨てられずにいるなら、間違いなく「旅バカ」です。

残念なことにそれは **不治の病** です。一度目は衝撃の印度  
2度目はうまくやれるナマステ 3度目はもう病気です！

バックパッカーの大好物, 最北端, 最南端, 最西端, 最東端, 赤道, 南北回帰線,  
洞窟, 離島, そして僻地, 辺境, 秘境, 越境…

**越境！** バックパッカーの妖しい与太話に散りばめられた真実、  
そして名もなき旅人たちが残し受け継いできた、

「金の北米、女の南米、  
数々のバックパッカー名言 & 格言。

耐えてアフリカ、歴史のアジア、何もないのがヨーロッパ、  
問題外のオセアニア」放浪 流浪 徘徊 ジプシー ノマド ボヘミアン etc...  
行った国の数はそんなに大切なのか？ 世界一周って何ですか？ あのガイドブックの裏話。

## J-Backpacker styleの系譜。

それは『何でも見てやろう』から始まった。結論のでないあの愛しきバックパッカー論の数々。  
「日本人宿/ガイドブック/節約ピンボー旅/夜のパトロール」カニ族全盛期から時は刻まれ、  
いまやバックパッカー3.0 爺ちゃんも両親も旅人の3世代目バックパッカー出現！  
スマホ, Wi-Fi, LCC, ナチュラルボーン…デジタルネイティブで、ソーシャル・ヒッピーな

こちら側の世界へようこそ。 **旅は変わっちゃまったのかい？**  
デジモンバックパッカーが闊歩する時代の到来。

**バックパッカー新聞、** 旅の環境や手法が変わっても、やっぱり旅は人  
**創刊です。** との出逢いだ、やっぱり人が断然オモシロイ。  
わたしたちは、そんなバックパッカー現役OB/OG、  
そしてこれからバックパックを担いで旅に  
出る仲間のベースキャンプとなりたい。

Coming soon. 『バックパッカー新聞』 Published By Japan Backpackers Link 発行人 編集長 向井通浩

<http://www.mag2.com/m/0001521550.html>

<広告>



# MAISON D`HOTE AMANDE CHEZ NORIKO

「モロッコのグランド  
キャニオン」と呼ばれ  
るトドラ渓谷までのん  
びり徒歩30分で行ける  
日本人が経営するアッ  
トホームな宿。  
バルコニーからは一枚  
岩が眺められ、手前の  
畑にはアーモンドの  
木々が見え春にはサ  
クラのような花が咲き  
花吹雪を楽しむことが  
できる。

## ◆料金◆

宿泊代 70DH  
朝食 20DH  
夕食 50DH  
洗濯機使用料 10DH

## ◆設備◆

部屋数4室  
サロン  
大きめのバルコニー  
Wi-Fi  
シャワー室・トイレ共同

日本食もO・K

家庭的な  
小さな宿



## ◆住所・お問い合わせ◆

住所

Ait Ousalene Tizgui TINGHIR 45800 MARO

電話番号

+212(0)6 7040 4369

+212(0)6 5319 5219

モロッコ国内からは0653195219

E-MAIL

amande@hotmail.co.jp

詳しくはホームページで

<http://amandecheznoriko.web.fc2.com>



MOROCCO  
TODRA GORGE

おかげさまで  
Brali もなんと

まことにもって  
ありがとうございます！

# 次号は2周年だよ！

次号から、**体験する旅**をテーマに取り上げていきたいと思っておりますので、ぜひとも記事をお寄せ下さい！

**例えば！**「台湾でライチ狩りをした」「シェリーの注ぎ方の特訓を受けてきた」「ベルベル人にラクダの扱い方を教わってきた」「インドでコットン収穫の手伝いをしてきた」などのレポートを。写真は多めでお願いします。

**さらに、本号でも取り上げてますが、「個人旅行のコモディティ」コーナーの「語学留学」「ブログランキング」「世界一周」の記事もお待ちしています。**

コモディティ化する「語学留学」「ブログランキング」「世界一周」ネタの現況をご存じの方、またはコモディティ化に対するオルタナティブな提案など。

**しかも！**デザイナーさん、イラストレーターさんも募集します。☹️（残念ながらギャラは発生しません。が、お手伝いいただいたあなたの作品を精一杯応援します。）

## 2周年をお楽しみに！

# CONTENTS

---

## CONTENTS

### ■テーマ「つながり」

□つながり

□再開

### ■個人旅行のコモディティ「語学留学」

### ■旅先の変な日本語

### ■旅人からの伝言 特集 アメリカ「アメリカ アメリカ舐めんなよ！」

### ■エッセイ「旅トキドキ・・・」

### ■HANGOVER in the WORLD「ミャンマーの酒」

### ■一本の糸で世界をつなぐチャリの旅

### ■連載ミャンマーレポート「一人旅卒業後、ミャンマー留学」

### ■自炊派の手料理「すいとん風スープ」

### ■エッセイたびたべ

### ■アジア漂流日記

### ■作者・情報提供者一覧

### ■編集後記

### ■次号予告

### ■記事募集

## テーマ つながり ～1. つながり～

---

たとえ一人旅だとしても、必ず何かとつながってる。

テーマ つながり ～1. つながり～

歴史のつながり、縁のつながり、地域のつながり、人とのつながり、ネットのつながり、旅をしているといろんなつながりを感じますね。

### つながり

「人との出逢いが旅の財産です」とシャレたことを言っちゃう旅人が多い気がします。別に悪いわけではないですけど、そんなにカッコウつけなくても良いのでは、と僕は思います。

今回のテーマは「つながり」。

上記の発言をしておきながら「ちょっとした」人間ドラマについてお話します。

「パタゴニアのFuji旅館の女将さんにギフトを届けて欲しい」

モロッコのサハラ砂漠で、キミさんに頼まれました。

キミさんは長期滞在型の旅人です。自分の好きなエリアに長期滞在しながら移動しています。ここモロッコでも数ヶ月滞在していました。

そんな彼女はパタゴニアの有名日本人宿「Fuji旅館」の元管理人さん。ペリト・モレノ氷河で有名なエル・カラファテにある宿ですね。

客がごくわずかの冬場に管理人をしていた「変わり者」です。夏場でも寒いパタゴニア。ましてや冬場なんて。想像するだけでも寒気がしますよ。しかし、

「そのお客さんが限られた時期だからこそ、宿の女将さんと仲良くなれた」

とキミさんは話します。

毎日一緒にご飯を作り、生活し、時にはチリ側に一緒に出かける。まるで家族のよう。

そんな生活を半年ほどしていたそうです。

キミさんに偶然会ったのはモロッコのサハラ砂漠の宿です。私しか宿泊していなく、彼女は当時の管理人でした。色んな国の宿で管理人しているみたいですよ笑。

キミさんに私の今後の旅のプランをお伝えしていると、

「え？ パタゴニア行くの？」

ということでテンションUP。上記の話の流れになりました。

なんか面白そうではないかと思い、私はOKしました。内心少々不安もありましたが。

というのも、「麻薬の運び屋」として私を利用する場合も十分に考えられるからです。依頼元が日本人であるケースも多々。気楽にOKするのはあまりお勧めできませんが、キミさんの経歴から判断して大丈夫だろうと踏みました。

※基本的に旅人の願いを私は早々受け入れません。わざわざリスクを自分に課す必要はないですし、旅は「自己責任の極み」と考えています。旅人への同情からトラブルは始まると言っても過言ではないでしょう。

結論的には考えすぎでした。キミさんごめんなさい。

モロッコでギフトを受け取ってから4ヵ月後、ついにパタゴニアのエル・カラファテに到着しました。その間キミさんから「もう届けてくれた？」だとか、「今どこにいるの？」などといった「催促」メールは来ません。そのノンビリとした感覚が旅人なんでしょう。

カラファテ到着後、早速Fuji旅館に電話します。夏場は人気の宿。予約で一杯であることも十分考えられます。そして、電話先では案の定、

「人で溢れているのでしばらくは宿泊できない」

との事。ここまで来て諦めるわけにはいかないので

「お届けしたいものがあります」

と告げ、Fuji旅館に向かいます。相手は

「はあ……。別にいいですけど……」

といった困惑気味な対応です。

宿はセントロ（中心地）から15分強歩く外れにあります。自分には何のメリットもない「ギフト」を運ぶのはどうかしているかもしれませんが。でも私は自分の「好奇心」がある以上、行動できるのですね。

それと「喜ぶだろうな」という楽しみがこちらにあったのです。相手が喜ぶ事を企画するのはドキドキするもんです。

ベルを鳴らし、宿に入ると「怪しげに」私を見つめる女将さん。そりゃそうでしょうね。いきなり「ギフトを渡します」と言われたら誰でも疑いますよ。

私はあえて「キミさん」という名前を出しませんでした。その方が驚くかな、と思ひまして。

事の詳細をお伝えして、女将さんにギフトを渡すと、

「あらまあ。モロッコからこんな遠くまで……。届けてくれたのね……」

と涙。

「キミちゃん元気かしら……。モロッコに今居るのね。ここにキミちゃんのお写真があるのよ」

あまりにも感極まっている女将さんの姿に、鈍い私も不覚にも胸が熱くなるのでした。

モロッコから1万km。ギフトをお届けしました。

恐らく女将さんは私の名前も顔も覚えていないでしょう（写真撮りませんでしたし）。女将さんがキミさんに連絡したかどうかも知りません。キミさんに「ギフトお届けしました」とだけ、お伝えしました。

別に何か見返りを求めているわけでは無いので、これでいいのです。一旅人からのサプライズということで。

これが今回私がお伝えしたかった「つながり」です。たまにはこういうお話もよいかないと思ひまして。

大谷 浩則

猪突猛進のトイレットパッカー。現在世界2周目！フィリピン留学からスタート。  
旅のPodcast配信しています！

Podcast:ウィーリーのバックパッカーラジオ 世界一周アワー

<http://tabitabi-podcast.com/sekai1/>

Blog:ウィーリー 海外放浪×地球一周×フィリピン留学 ～実況！旅人アワー～

<http://ameblo.jp/hero23/>

Twitter:[@taniwheellie](https://twitter.com/taniwheellie)

## 再会

ベタな話だけれど、旅の醍醐味の一つに人との出会いがある。現地の人との出会いはもちろん、世界中の旅人との出会いがそこにはある。

ラオスに旅行に行った時、首都ビエンチャンにあるサバーイディーゲストハウスのドミトリーに泊まった。決め手は立地と値段(当時一泊25,000キープ≒250)。2段ベッドが6つ並んでいる12人部屋だった。

メコン川近くの屋台で夕食を食べ、ビアラオ片手に宿に戻り、翌日のルアンパバーン行きに向けて荷造りをしていると、外から帰ってきた2人組の日本人に話しかけられた。一人はリョウ、いかつい体格で日本に居たらまず話さないであろう風貌。年齢はタメ。もう一人はショージ、こっちはリョウとは違い優男風。年齢は一個下。同じ宿に泊まっていた外国人も交えてゲストハウスのテラスで今回の旅の話、仕事の話、日本での話、その他色々な話をした。

正直日本で出会っていたら俺はリョウには良い印象は持たなかったと思う。人を見かけで判断するな、とは言っても第一印象を覆すのは難しい。でも、日本ではなくラオスのゲストハウスのテラスでゆっくり話したら、見かけによらず色々考えてるんだな、と思った。同じ日本人同士でもずっと日本にいたら決して交わらなかったであろう線が交じり合った。これが旅の醍醐味だ。

翌朝、たまたま同じくらいの時間に目覚めたショージと一緒に朝食を食べ、彼とは別れた。それから俺は一人でビエンチャンの寺とか寺とか寺とかを観光し、これまた前日と同じようにビアラオ片手に宿に戻った。

俺がルアンパバーンへの夜行バスに乗るために宿を出ようとしていると、リョウが「ちょっと飯でも食おうぜ」

と声を掛けてきた。まだ時間があったので快諾した。

あいつ飯食う金もないって言ってたけど大丈夫なのかな、と思っていたら案の定、肉まんをたかられた。旅に出て二日目の俺と、旅の終わり間近のリョウ、金銭的な余裕が全然違うから、仕方ないなあと思いながらも奢った。

二人でその決して大きくはない肉まんを頬張りながら、お互いの旅の無事を祈って別れた。

海外での旅の出会いはいつも一期一会。寂しいけどそれでいいと思ってる。

帰国してしばらく経った頃、知らない人からフェイスブックにメッセージが届いた。

「ラオスのバンビエンで俺と会ってないかな？」

バンビエンでこんなやつと会ったっけ……？　と思ってプロフィールを読んでいると思い出した。リョウだ。バンビエンじゃないビエンチャンだ。

「ずっとミツヤのこと探してたんだよ！　あんときのメシのお礼にメシおごるぜ!!」

なんでも、ラオスで肉まんを奢ったお礼に食事を奢ってくれるとのこと。名前と顔と大学名しか覚えていなかったとか言いながら、日本に帰ってからずっと俺のこと探してくれていたらしい。ラオスに行った時俺はまだフェイスブックは始めていなかったし、帰国してからもフェイスブックを始めたのはちょっと経ってから。だからリョウがすぐ諦めていたら絶対見つけてくれることはなかった。しかもラオスでの一食なんて、日本の物価で考えたらたかが知れている。それでもリョウは

「あんとき貧乏だったから、安くても助かったんだよ。だからメシくらい奢らせろ!!」

って。それまで、海外で出会って日本に戻っても続いている関係って無かったから、すごい嬉しかった。

当時俺は名古屋で働いていたから、別件で上京した際に、新宿でタイ料理をご馳走になった。アルタ前で再会した時、やっぱり日本で出会ってたら絶対こいつとは話すことは無かったなと思った。

同じ日本人同士であったとしても、旅に出なければ出会えなかった出会い、旅に出たからこそ出会えた出会いがある。

これだから旅はやめられない。

三矢英人

将来の夢は世界一周と言い続け早10年、『深夜特急』の沢木さんが言う旅の適齢期が到来し気が気でない毎日を送っているリーマンパッカー。世界中の遺跡、旧市街、酒を追い求め今日も次の旅に思いを馳せています。Twitter:[hideto328](https://twitter.com/hideto328)

# 個人旅行のコモディティ

その旅、「誰かの旅」をなぞってるだけじゃないですか？

記事募集中

旅人の数だけ旅があるはずなのにネット上を見ていると、自由なはずなのに、なぜか線路の上をぞろぞろ歩かされてる？  
みたいなの。

「**語学（英語）留学**」はフィリピン一辺倒。

「**プログラミング**」上位維持のためのネタ探しの移動。

ネコも杓子も薄い体験でも感動の「**世界一周**」など。

かと言って、批判したりダメ出しする気は毛頭なく、どんどん「**語学留学**」「**プログラミング**」「**世界一周**」してもらいたい。

ここでは良し悪しではなく、実態を覗いてみたり聞いてみたり、別の方法などに触れてみたい。

## 個人旅行のコモディティ

---

### 語学留学検証@南アフリカ共和国

英語を学びに留学をしようと思った。

理由はひとつ。世界中の人と話がしたかったから。なんとも単純だ。

自分はなぜ英語をしゃべれないのか。文法など、日本で勉強できることはやってきた。そのおかげでTOEICや英検は、そこそこできるほうだと思っている。

でもしゃべれない。なぜか。その答えは単純だ。

『生の英語に接する機会が足りていないからだ』

それならば留学をしてみよう。

そう考え、思いつくままに候補になりそうな国を挙げてみた。

まずは英語ネイティブの多いところ。アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリス、ニュージーランド、ハワイ、南アフリカ。

そして格安で留学ができるところ。フィリピン、インド、フィジー、シンガポール。

ざっと思いついたこれらの国を眺めながら、どうすれば英語に触れる機会をたくさん持ち、英語が身に付くのかを考えてみた。必要なのは「英語をしゃべれる環境」だ。

旅行が好きなので、旅先で英語を使う機会はたくさんある。ただ常々思っていたことは、旅行英会話ではなくしっかりとした日常会話としての英語を身に付けたいということ。

そのためには、ネイティブとしゃべれる環境、あるいはノンネイティブでも英語に対してのモチベーションが高い人に囲まれる必要があるのではないだろうか。そんな環境に身を置けば、日常英会話を身に付けることができるかもしれない。

『文法は日本でも勉強できる。生きた英語を学びたい』そう強く思いながら始めた国選びの基準は3つ。

- ・ディスカッションができるところ。
- ・友達と遊ぶ時間があるところ。
- ・ネイティブの英語に触れられる機会の多いところ。

この3つが満たされる国はどこだろう。

最近人気のあるフィリピン留学。情報では、みっちり英語の授業を受けることができるらしい。ただそれは日本でもできそう。

次にインド。残念ながらネイティブと触れる機会があまりなさそう。やはりネイティブの英語に触れるには、アメリカ、カナダ、オーストラリアが一番だろうか。ただ旅先としてあまり魅力を感じない。

それでは南アフリカやシンガポールならどうだろう。母国語が英語であり、ヨーロッパ人旅行

客も多い。ネイティブと触れ合う機会が多く、多様な人と触れ合うチャンスもある。

そうだ、どうせ行くのなら旅先としても面白そうな南アフリカにしよう。

調べてみると、南アフリカは、英語、アフリカーンス語、コーサ語など様々な言語を公用語としているらしい。しかし、大抵の人が英語ができるという。様々な言語を持つ国だからこそ、色々な訛に触れる機会もありそうだ。費用もフィリピン留学とさほど変わらず、短期であってもしっかりと受け付けてくれるらしい。

南アフリカで決まりだ。

次に決めるのは現地での住み方。大きく分けて4つある。一人暮らし、ゲストハウス、ホームステイ、そして寮だ。この中で英語を伸ばすには、どれが一番良いだろうか。

まずは一人暮らしの場合。英語をしゃべる相手が回りにおらず、基準とかけ離れているので却下。

次にゲストハウスはどうだろうか。各国からの旅行者が集まるゲストハウスでは、結局旅行英会話しか覚えなさそうで、日常英会話を身に付けたいという目標からは遠そうだ。

選択肢として残るのは、ホームステイか寮。比べてみると寮のほうが、みんなで遊んで、英語を使う機会が多い気がする。ディスカッションもできそうだ。英語を使ってケンカを覚えたい、というささやかな願いも叶うかもしれない。寮生活に決めた。

最後の問題は南アフリカのどの街に住むか。色々な人と触れ合うには、やはり都会のほうが良いだろう。南アフリカでは、ヨハネスブルクとケープタウンが二大都市。

ヨハネスブルクはビジネスの街だが、ケープタウンは旅行者もビジネスマンもどちらも多いので、より多くの人と触れあえるに違いない。決まった。

探すべきはケープタウンで寮のある学校だ。できればそれほど授業の多くないところがうれしい。

調べ進めていくと、ケープタウンは、アフリカ人はもちろん、ドイツ人やスイス人など、ヨーロッパの人にも人気の英語留学先だということが分かった。日本でいうところのフィリピン留学のようなイメージだろうか。

そんなヨーロッパ人に人気の場所に日本人が乗り込む。なんとも面白そうじゃないか。

語学留学をしようと思った理由はひとつ。「世界中の人と話がしたい」という単純なもの。

そしてそれを達成するために必要なことは2つ。「英語をしゃべる環境をつくること」そして「英語に対するモチベーションの高い友達をつくること」この2つを達成するのに南アフリカは最適な国だ。

自分の知らない世界に触れたくて、初めてカナダに行ったのが高1。国内外問わずウロウロと。多くの街に行くよりは、一つの街でじっくりと人に触れる旅がしたい。現在は、技術者として腕みがき、翻訳ボランティアをしながら、エネルギー問題の解決方法を考える日々。誰か一緒にやりましょう。100人100旅；第1、3、5弾執筆者。100人100旅を通して東京、名古屋、京都、熊本、函館、イタリアで写真展を開催。個人的にも名古屋の旅人と共に写真展を開催する。

Twitter ; [@ponn\\_kazuya](https://twitter.com/ponn_kazuya)

日本語



旅先の

海外の旅先で見かける、どう見ても変な日本語。看板やメニュー、商品やチラシに至るまで。笑わせてくれる「変な日本語」をTwitterで集めて見ました。



「独特な味」？そう書かれることで、すべてを受け入れろと言われているようで、かなり怖いんですけど・・・。

写真提供 <http://twitter.com/chibirock>



日式？バター茶？チベットのマズいと悪評のバター茶も日本式にすれば美味しくなるというのか？そんなことはないよ。

写真提供 [http://twitter.com/World\\_Hacks](http://twitter.com/World_Hacks)



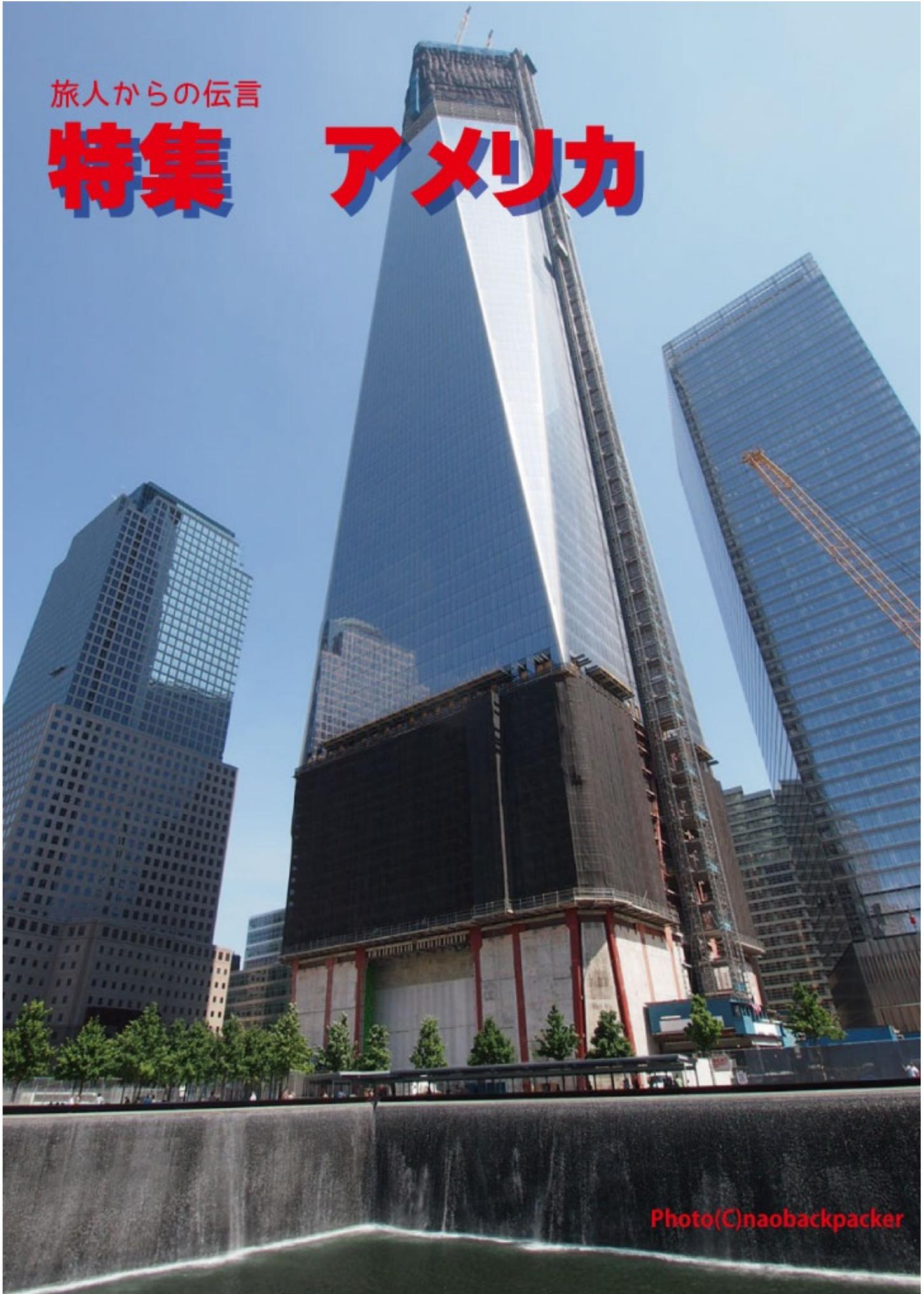
「ヤンラはい」 もはや日本語を使う意味すらわからない・・・。

写真提供 [http://twitter.com/World\\_Hacks](http://twitter.com/World_Hacks)

旅人からの伝言

**特集**

**アメリカ**



Photo(C)naobackpacker

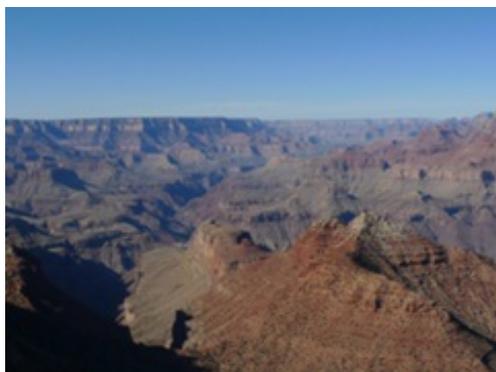
旅人からの伝言 特集アメリカ  
アメリカ アメリカ舐めんなよ！

長谷川正吾

33歳

2011年7月より夫婦ふたりで世界一周スタート、途中3ヶ月の一時帰国期間も含めて、2013年3月末に西回りでの一周を達成して帰国。

たびたびブログ：<http://sgyk.exblog.jp/>



2012年10月、世界一周バックパッカーとして、アメリカはロサンゼルスに降り立つ。

着いて早々に格安レンタカーを手配して、バックパックはトランクにぶち込んでしまった。バックパッカーは一時休業。これから2ヶ月は自由気ままなレンタカーパッカー。慣れない左ハンドルの車を走らせることで始まったこれまでとは全く異なる手段での旅。いくらかの不安はあったが、アメリカという名の超大国は、予想以上に歓迎モードだった。セーフティーだし、イージーだし、ルールさえ守れば何かと自由。多民族国家ゆえに他の国と比べると旅人らしい扱いを受けることが少なく、それはそれでとても新鮮だった。

実を言うと、アメリカに大した期待はしていなかった。友人がいるし、我々夫婦共通の趣味であるボルダリングも出来るしってことで、"とりあえず"世界一周ルートに組み込んでみたのだが、実際にレンタカーパッカーとしての旅を経験した我々が声を大にして唱えたいのは、「アメリカ舐めんなよ！」ということだ。



どうしたってアメリカはバックパッカーに軽視されがち。その理由は、とにかくお金が掛かり

そうというのが大きいだろう。確かにそうだとうなずいてしまうというのも正直なところ。しかし、「それに見合う何か間違い無くここにはある！」と強く思う。確実にハイコストハイエストリターン。

それから、「広すぎてどこに行ったらいいかわからない……」なんて声も聞く。確かにその広さゆえに移動と共に気候は変化し、2ヶ月の間に春夏秋冬を味わえるほどだ。そんな中、我々は主にアメリカ西部の国立公園を巡ったのだが、それぞれに強烈なまでの個性があり、どこを訪れても飽きてしまうということは無く、ぶったまげる景色の連続だった。あくまで個人的な感想だが、あの超有名観光地であるグランドキャニオンが最も味気ないと感じるほど、魅力に溢れたスポットが多数存在していた。大自然がお好きな方には間違い無くお勧め出来るエリアだ。



そんなアメリカ西部の中でも最もメジャーなのが、主にユタ州・アリゾナ州で構成されているグランドサークル。モニュメントバレーやアーチーズ、ザイオンなどたくさんの国立公園が点在しているエリアだ。中でも一番の注目株は、"地球の神秘 THE WAVE"。ここ一日10人しか当たらない前日抽選だって、時間だけはあるよというレンタカーパッカーにはうってつけだ。抽選会場のすぐ隣にあるキャンプ場にテントを設置し、ビンゴが当たるまでの〜んびり構えてればその内当たるはず。近くにいくつも国立公園があるし、アンテロープキャニオンだって余裕の日帰り圏内。ビンゴが当たれば最高、当たらなくても周辺の見所だけで十二分に楽しめるのだ。



それからグランドサークルより少し足を延ばした先にある、世界初の国立公園イエローストーンや、ヨセミテ、デスバレーも見所が多いし、ニューメキシコ州のカールスバッド洞窟やホワイトサンズも見逃せない。そんな大自然スポットを回っていると、2ヶ月なんてあっという間に過ぎてしまう。



そもそもバックパッカーという人種は何を求めて旅という非生産的な行為を続けるのだろうか。その答えはまさに十人十色。しかし、多くの旅人が共通して求めるのは、「未知との遭遇」では無いだろうか。そういった点において、アメリカという国は間違い無くその期待を裏切らない。いわゆる"見たことのない大自然"というやつがゴロゴロしていて、強烈なまでのエネルギーを発していた。

「地球も惑星のひとつなんだ」ということを、これほどまでに意識させてくれた場所は他に無い。

そして、ほぼ全てのバックパッカーがこだわっているのは、「自由気ままに」というフィーリングではないだろうか。その点、キツイスケジュールのツアーのように時間を気にすることもなく、行きたい所にいつでも好きな時に行けるレンタカーパッカーとしての旅は、まさに自由気ままだ。車のトランクに格安キャンプ用品さえ用意しておけば宿泊地には決して困らない。どこでもキャンプをしい訳ではないが、キャンプ場は無数に存在しているし、フリーWi-Fiやホットシャワーが使える所もある。キャンプが面倒くさければ、快適なモーターをチョイスしても良いだろう。

バックパッカーとしての旅の中での危険な思い、貧しい思い、不自由な思い、その先でしか手に入らない何かもあるだろう。それこそが醍醐味であるというのも理解できる。しかし、安全で快適で自由で、それでいて未だ見ぬ何かとの出会いが果たせれば、それはそれでいいと思う。夫婦バックパッカーはもちろんソロバックパッカーも、仲間を募って是非ともアメリカレンタカーパッカーとして、地球の惑星としての凄みとその神秘性を感じて頂きたい。





鈴木モト

男性 静岡県出身。高校時代、陸上でインターハイ出場。ベストタイム10秒84（100M）  
美容師免許、管理美容師免許取得。

MIXIコミュニティ、「鈴木が書く世界一周旅行記が好きだ」2800人突破。

[http://mixi.jp/view\\_community.pl?id=3502328](http://mixi.jp/view_community.pl?id=3502328)

現在、一眼レフカメラ片手に世界を放浪中。

ブログ「地球の迷い方。～世界放浪編～」

<http://ameblo.jp/roundtheworld200130/>

（※作者の希望により、行間を空け、文頭のひとマスは空けないようしています。）

フィジー1周!!

『良かったら家に泊まりに来ないか？』

フィジーで.....

ローカルバスを待っている時、  
近くに居た老人にそう声をかけられた。

地元民と共に、舗装されていない道を  
バスで揺られる事、数時間。

山の谷の間に見えてきたのが、  
藁葺きの家、家、家。

まるで日本昔話の世界.....。



バスを降り、村に入ると、  
地元民の好奇の目が、一斉に俺一人に向けられた。

何だか自分が有名人になったような感覚。

しかし……、  
皆の視線が少しばかり痛え。  
有名人も大変かもしれん。

老人に連れられ、藁葺きの家に入ると、  
家の中に居た黒人の若者達の視線が  
一斉に俺に突き刺さった。

どうやら、外国人がこの家に訪ねてくるのは、  
俺が初めてらしい。

座らされ、お茶をすする。

俺の隣に座った、身長190センチはあるだろう、  
イカつい若者。

ずっと俺を直視し、  
前のめりで俺に質問攻めをしてくる。

TVも、電気も、ガスも、水道も無い、  
この村。

娯楽なんてものは、何も無い。

きっと、外国人の俺は、  
彼らにとって格好のおもちゃだろう。

イカつい黒人の若者が、  
異国人の俺が家に来た事に興奮したのだろうか、

話しながら  
少しずつ、俺に近づいてくるのを見て、

今夜襲われぬか、  
本気の本気で心配になった。

芋と、野菜を食い、夜8時にこの日は消灯。

電気の無い村の夜は早い。  
寝れるワケがねえ。

そして、村の朝は早い。

朝6時には  
ニワトリの鳴き声とともに  
皆起きていた。

しかし……、

フィジーの男は働かない。フィジーのというか……、  
東南アジアの男は働かない。

友達が訪ねて来たかと思えば、  
団らんが終わると横になり、

昼飯を食えばゴロリと横になり、

トイレから帰ってくれば横になり、

晩御飯を食えば横になる。

冬が無いこの国。

きっと年中、食べ物には困らないのだろう。

歩けば、自然のマンゴーや芋が手に入り、  
喉が乾けば、木に登り、ヤシの実が手に入る。

日本とは違い、冬の為の蓄えが無くても、  
生きていけたこの国。

そのせいか、フィジーの人はのんびりとして  
計画性が薄く、欲が無いように感じた。

そして、隣近所との結び付きが強いせいも、  
世話焼きの人や、優しい人が多いように感じた。

シャワーは無いのかと聞くと、  
川があると言われた。

だが、川は  
連日の雨で超増水。

川で水浴びをする事に死の危険を感じた俺は、  
村にポツリポツリとある水道で、  
身体を洗う事に。



日本人の俺が珍しいのか、  
外を歩けば注目の的。

皆が見守る中、パンツ一丁で、  
村のど真ん中の水道で身体を洗う俺。

動物園のパンダの気分……。  
有名人はマジ、楽じゃない。笑

夜、うめき声で目を覚ますと、  
おばあちゃんがお腹を抑えて、痛そうにしていた。

テンパった俺は、隣の家に住む息子を起こし、  
つたない英語で事情を説明。

しかし……

こんな時に何で俺は、  
何も薬を持っていないんだ。  
まじで最悪だ。

『どうする？病院連れて行く？』

俺がそう聞くと、  
病院はここから車で1時間半は  
かかるとの事。

しかも今の時間は病院は閉まっているし、  
車も無いとの事。

俺の心配そうな顔を見かねたのか、青年は、

『心配ないよ。ノープロブレムだ！』

と言うと、近くの木の葉っぱを、ブチブチむしり始めた。

そして、その草を鍋に入れ、火にかけた。

『何してるの？』

俺が尋ねると、青年は  
『これは薬草だよ』と少し誇らしげに言った。

こんな時の為に、村のいたる所で  
薬草を栽培しているらしい。

お湯が沸騰するまでロウソクの灯りの元、  
おばあちゃんのお腹をさす俺と青年。

だけど、薪の火力では  
お湯が沸騰しない事しない事。

待つ事40分。

茹でた薬草と汁をロウソクの灯りの元  
おばあちゃんに食べさせる。

カメラの時計に目をやると  
夜中だと思っていたけどまだ10時半だった。

真っ暗なせいで、時間感覚がよくわからない。

もし……

あばあちゃんの容態が悪くなったら、どうすればいいのか？

急性の盲腸とかだったら、命の危険も出てくる。

大きな病院に電話して、ヘリを飛ばしてもらおうか??

でも電話が無い。  
誰か携帯持ってるのかな？

でも……

ヘリを飛ばすと物凄いお金がかかる。

俺の体調が悪い事にして、ヘリできてもらおうか？

そうすれば、俺の海外保険で、  
ヘリ代を支払えるかもしれない。

でも、そんなインチキが保険会社にバレたら  
俺は詐欺罪で捕まるかもしれんが……。

そんな事を悶々と考えていると、  
おばあちゃんの様子が落ち着いてきた。

そしてさらに薬草を食べさせる。

彼らの素朴な生活環境を見ていると、  
同じ平成の時代を生きているとは思えない。

日本は今から50年も前に、  
三種の神器（テレビ、洗濯機、冷蔵庫）が家庭に普及していた。

やっぱ、日本すげえわ。

青年と、おばあちゃんのお腹をさすりながら、  
お互いの話をした。

青年はこれから大学に行く為に  
町に出て働いてお金を貯めるとの事。  
(大学の費用、10万円程)

日本人の俺もフィジーの大学に行けるの?と聞くと、  
簡単に行けるとの事。

"フィジーで大学に通う"

英語の勉強にもなるし、  
1年とか半年のコースもあるし、何だか面白そうかもしれない。

もし、みつまと  
アフリカで待ち合わせをしてなかったら、

もしアフリカ行きの航空券を取って無かったら、

お金がもう100万余分に持っていたら、

俺、何の前触れも無く、危うくフィジーの大学に通ってしまう所でした。

危なかった～。

次の日の朝.....

おばあちゃんはピンピンしてました。

薬草が効いたのか？良かった良かった。

トイレに行こうと藁葺きの家を出ると、  
馬に乗った村人が、さっそうと俺の前を横切った。

それを見て、  
改めてド田舎にいるなーと、再確認してしまいました。

今時、移動手段が馬って……。笑

そして、今この日記を、ベットの上で書いてるのですが  
20箇所ほど、南京虫に食われてしまいました。  
(かゆみが2週間続き、跡が1～6ヶ月程残ります)

旅してるなーという感じがして、  
少し嬉しかったです。笑

では……、

明日から、島に行つてのんびりしてきます。

しばらく日本語話してないな。  
今一人で旅してるので

文章でも書かないと  
日本語忘れてしまいそうです。

では、また。

SEE YOU——☆☆



### HANGOVER in the WORLD

#### ミャンマーの酒



『ミャンマーのビールが美味しい』という記事をBraliのvol.2で読んでから、ミャンマーに行く日を楽しみにしていた。ミャンマー自体数年前から行きたいと思いつけており、実際に航空券を調べてもいた（その時は会社の休暇の関係で泣く泣く断念し、ラオス、ベトナムへ）。

ミャンマーのビールを楽しみにしていた理由のもう一つは「ビアラオ」である。ラオスのビール「ビアラオ」は一般の日本人にとってタイの「シンハー」「チャーン」、シンガポールの「タイガー」などと比べるとなじみの薄い銘柄だと思う。しかし旅人の間での評価は抜群に高い。私も2年前ラオスに訪問した際に連日飲んでいたが飲みやすく、そしておいしいビールだった。

あくまで個人的なイメージであるが、ミャンマーとラオスには近いものを感じる。東南アジアの中でも発展が遅れ、今でも古き良きアジアが残っているとされている。人も穏やかでガツガツ客引きされることも、法外な値段をふっかけられることも少ない。

これは「ミャンマービール」も「ビアラオ」と同じように、噂に違わぬおいしいビールなのではないか、と勝手に想像し期待していたのであった。

ミャンマー到着初日、夕食をどこで取ろうかとガイドブックを見ていると通称“バーベキューストリート”と呼ばれる串焼きメインの安いビアホールが軒を連ねる通りがあるとの記述を発見した。これはもう行くしかないということで急行した。

しかし、あろうことか私はその“バーベキューストリート”を見つけることができなかったのだ。朝から晩までサンダルで歩き通し疲れきった私は、一杯のビールだけを楽しみに残された体力を振り絞って歩いていたのだが、ついぞ見つけることができなかった。

宿に戻る途中の屋台で怪しいカレーを食し、ミャンマー初日は楽しみにしていた「ミャンマービール」を飲むことはできないのか、と失意のどん底で宿の近くまで戻ってくると、外国人向けと思われるレストランを発見した。「ミャンマービール」の看板が出ている。これは飲むしかない！

「ミャンマービール」は不思議なことに瓶より生の方が安い。店によって多少値段は異なるが、概ね大瓶1本1,800チャット(1チャット≒0.1円)、缶1本1,000~1,500チャット、中ジョッキ1杯600チャットとなっている。「ミャンマービール」以外の「マンダレービール」や「ダゴンビール」は大瓶1本1,500チャットが標準的な値段である。

初めて飲む「ミャンマービール」のうまさは私の予想を超えていた。東南アジアのビールは概して軽い。暑い気候に即しているのか軽い飲み口でグイグイ量を飲むようなビールが多い。タイやベトナムなどではビールに氷を入れたりもするし(日本でも少し前からキリンビールが氷を入れて飲むビールを販売していますね)飲みやすさを重視しているようなそんな印象を受ける。そんな中「ミャンマービール」は他の東南アジアのビールと比べるとコクがあり味がしっかりしている。それでいて喉ごしもいい。噂に違わぬおいしいビールであった。ちなみにアルコール度数は5%、大瓶1本640ml。実はこの「ミャンマービール」、モンドセレクションで金賞を複数回受賞、他の国際的なビール大会でも受賞歴があるという世界的に実力が認められているビールなのだ。



ミャンマーには「ミャンマービール」以外にも多数のビールが存在する。

まず紹介するのが「ダゴンビール」。「ミャンマービール」と同じアルコール度数5%。大瓶640ml。「ミャンマービール」同様他の東南アジアの国のビールと比べて濃い飲み口が味わえる。加えて、「ミャンマービール」よりフルーティーな口当たり。個人的には「ミャンマービール」よりもおいしく感じられた。私が飲んだのは緑色のラベルのノーマルタイプであったが他にも赤いラベルのストロング(アルコール度数8%)もあるとのこと。また、私は飲むことができなかったが、「ダゴンビール」の別ブランドとして「スコールビール」というアルコール度数7.2%と若干高めめのビールも販売されているようだった。因みに「ダゴンビール」のダゴンとはミャンマーの最大都市ヤンゴンの昔の呼称である。

お次が「マンダレービール」。「マンダレービール」自体はミャンマー中で飲むことができるが、私はどうせ飲むならマンダレーで飲みたいと思いマンダレーまで飲まないで取っておいた。しかし体調不良によりマンダレー行きを泣く泣く断念せざるをえなくなってしまった。その後訪れたバガンでも「マンダレービール」を飲む機会に恵まれず、結果今回の旅行では一度も味わうことができなかった。大きな心残りである。事前に調べた情報によるとアルコール度数5%の青いラベルのラガーと、アルコール度数7%の赤いラベルのストロング・エールがあるとのこと。次回の訪緬の大きな楽しみのひとつである。

その他ミャンマーではシンガポールの「タイガービール」「ABCスタウト」、タイの「シンハービール」「チャンビール」などのビールも飲むことができる。確認できた限りにおいては全て1,000チャット～1,500チャットであった。



ミャンマーは、世界3大仏教遺跡のひとつバガンや、ゴールデンロックとも呼ばれるチャイティーヨー・パヤー、古都マンダレーにバゴー、風光明媚なインレー湖など世間ではあまり知られていないが実は多くの観光資源を有する国である。加えておいしいビールも飲めるとくれば興味を持たれた方も少なくないのでは。前述した通り人も穏やかで思っていた以上に旅行しやすい国だったので、急速な民主化で変わってしまう前に東南アジア最後のフロンティア、今のミャンマーを見に行ってみてはいかがだろうか。

#### 【TOPIC】

かつてミャンマービールの王冠は裏がくじになっていてめくって当たりがでるとお金がもらえたそうであるが、現行発売されている瓶にはくじはついていないとの事だった。

見分け方は王冠の色で、茶色い王冠にはくじがついているが、緑色の王冠にはくじはついていない（チャイティーヨーのシーサー・レストランにてスタッフの少年に確認。写真のくじ付王冠はそのスタッフに見せてもらったもの）。楽しみにしていただけに残念だ。



三矢英人

将来の夢は世界一周と言い続け早10年、『深夜特急』の沢木さんが言う旅の適齢期が到来し気が気でない毎日を送っているリーマンパッカー。世界中の遺跡、旧市街、酒を追い求め今日も次の旅に思いを馳せています。Twitter:[hideto328](https://twitter.com/hideto328)

## 一本の糸で世界をつなぐチャリの旅

---

### 一本の糸で世界をつなぐチャリの旅

#### インドというイジゲン



功：鳴り響くクラクション、道路を埋め尽くす車、リクシャ、人、牛、ヤギ……。

儀：無秩序な世界。自転車で普通に走ることは不可能。

功：加えて劣悪な衛生環境な南アジアのインド。

儀：チャリダーにとってこれほど居心地の悪い国はありません。

功：自分の息づかいと鼓動以外、音と言う音がしなかった中央アジアの砂漠地帯とは全く正反対の世界。

儀：今まで約1万kmを自転車で旅してきて、西ヨーロッパの国々、東ヨーロッパの国々、トルコ、コーカサス、中央アジアと進んできたのにも関わらず、僕たちはこれからインドという、たった1つの国の中で、様々なカルチャーショックを受けることになります。

功：旅をしてきて半年。様々な場所で様々な旅人に会い、インドは、あそこは世界が違う。行く際は気をつける、と念を押され続け、一抹の不安を感じつつも、それ以上の期待とワクワクがインド入国時には2人の中にありました。

儀：で、実際は……想像以上。

功：実質滞在したのは1ヶ月半ほどにも関わらず、インドでの経験の話題は尽きることがないよね。

儀：うん、どんな話も結局はインドに繋がる……。



功：（バンバンバンッ！）こら！おまえ！そこをどけ!!!

儀：邪魔だって言ってるだろ!! ってお前後ろから突っ込んでくるな!

功：うわっ！なんでこんなところからトラックが出てくるんだよ！

儀：功甫あぶない!! 左からオートリクシャが!!!

功：まてまて目の前の牛にも気をつけろ!!

儀：くそー おれ今うんこふんだよ……。

功：まあ産みたてじゃないからいいでしょ。ドンマイ。

儀：そうだな。そう思えるおれが怖いよ。

功：確かに……。

儀：カオス！ これこそカオス!!

功：まさに混沌。としか言いようがありません。

儀：秩序などもはや存在しない。無法地帯インド。

功：道に溢れかえる車、リクシャ（三輪型自転車タクシー）、オートリクシャ（三輪型バイクタクシー）、バイク、自転車、人、牛、ヤギ、うんこ、リアカー!!

儀：だれも信号を守らない。隙あらば歩道だろうが、逆車線だろうがおかまい無しで突っ込んでくる。

功：踏切では、遮断機が下りると歩いている人たちは電車がそこを通過する1秒前まで遮断機をくぐって反対側へ渡る。

儀：で、くぐれない車や、リクシャは待っている間、どんどん前へ突っ込んでくる。

功：反対車線だろうが関係ない。電車が通過して、遮断機が上がる頃には、線路を挟んですれ違う隙間がないくらい道路一面に車やリクシャが犇めき合い、そしてそのまま誰もが譲ることなく直進する。

儀：結果線路の真ん中で正面衝突。後ろからはどんどん車が隙間を埋めていく。

功：基本的に並ぶ習慣は無いからね。至る所で車がぶつかっていて、走っている車もみんなぼこぼこ、ぼろぼろ。

儀：なんか、日本と運転の概念が違うんだよね。車にはミラーついてないし、まあ付いてても見ない。バイクとかも自分の顔をサイドミラーが写してたり。（笑）

功：じゃあ何でみんな事故らずに運転できているかということ（至る所で事故っているのですが）、彼らの運転時クラクションを鳴らします。みんなやたらとクラクションをぶーぶー鳴らす。

儀：最初はなんでみんなこんなクラクションばっか鳴らすんだよ。やかましい！ って思ったけど、あれで何処に誰がいるか確認してたんだね。

功：トラックには後ろに「クラクション鳴らしてください（horn please!）」って書いてあるくらいだからね。

儀：しかもデコトラ具合は日本の運ちゃんもびっくりですしな。

功：クラクションでまかないきれない部分はぶつかって確認。うん、クレイジー。

儀：ちょっとどいてほしいときは前の車をどつく。ぼくらは遠慮せず前の車をボンボンたたいて

、時には蹴って道を切り開いてました。

功：そうでもしないと前に進めないからね。

儀：インドを旅していて、一番怖かったのが、でっかいデコデコのトラックが、田舎の方になると100km/h以上のスピードでしかも反対車線をがんがん突っ込んでくること。

功：大きな町と町をつなぐ幹線道路は大抵片側2車線で、中央分離帯をはさんで全4車線なんだけど、中央分離帯があるにもかかわらず、トラックはその隙間をこじ開けて反対車線へ侵攻してくる。

儀：そして罪のない我々に容赦ないクラクションと、ためらいのないタックルを食らわすべく突っ込んでくる。

功：ぼくらは何も悪くないのに……。

儀：もちろん、後ろからもそういったトラックはやってくるわけで、毎日自転車で走りながら生きた心地がしなかったよね。

功：それに加え、毎日必ず一台はトラックが道の脇にひっくり返っているのを目撃するので怖さ倍増。

儀：そりゃあんな運転してりゃ事故るわ！

功：ほんと、無事に走りきれてよかった……。

儀：間違いない。

功：所変わって町に入ると、そんな凶暴なトラックは姿を隠すのですが、代わりに登場するのがリクシャ。



儀：あれ？ これコースケが運転してない？

功：うん、あまりにたくさんあるし、楽しそうだったから運転手さんに、君後ろのっていいからおれに運転させて？ って頼んでみたんだ。

儀：そしたらまんまこうなったわけね。

功：yes(笑) 運転手さんもすごく楽しんでくれてたよ。

儀：こうやってみると楽しげですが、この中で荷物付けたばかりでかい自転車を走らせることをご想像ください。

功：もはや走れたもんじゃない。

儀：10秒に1回は接触しながら足を擦りむきながら、なんとか毎日こいだよな。(笑)

功：噂では聞いていたけどまさかこれほどとは。インド。

儀：今回、まさかのインドの交通事情だけで話が終わってしまったくらいだからね！

功：あ、本当だ！ 次回からもしばらくインド話で花が咲きそうですね。(笑)

儀：いいではないですか。みなさまにインドに行けば価値観が変わるよと言われる所以をとことんお話ししていきましょう！



Connection of the Children

<http://coccoccoc.web.fc2.com>

田澤儀高

横浜国立大学大学院音楽教育専攻一年。ピアノと自転車旅が大好き。小さい頃からチャリで遠出するのが趣味。将来は学校の先生になって音楽の素晴らしさを子どもに伝えたい。そしてユーラシア横断の旅で感じてきたことも。

加藤功甫

横浜国大大学院保健体育科専攻。ユーラシア大陸を横断後、ロングディスタンストライアスロン世界選手権出場。人のため、地球のために。ワクワクすることを。一本の糸で世界の子どもをつなぐ旅プロジェクト企画中。



<http://ht.ly/krMLD>

連載ミャンマーレポート「一人旅卒業後、ミャンマー留学」



yukkichalk

ビール+鯖+笑い=Happyな東京人。

教師→バリスタ→看板描き→OL後、毎年訪問でハマリすぎたミャンマーに留学中。

<http://blog.goo.ne.jp/yukkichalk>

初体験レポート：水掛け祭り@ミャンマー



日本に一時帰国したり海外に脱出したりと、ヤンゴンに残る学生は意外にも少ない。私たちYUFL（ヤンゴン外国語大学）の学生は、学生ビザで滞在しているが、ビジネスビザやその他のビザでミャンマーに再入国できるなら、海外に出てもOKなのだ。※ただし、観光ビザでの再入国は認められていません。

水掛け体験済みの日本人からは、なかなか良い評判を聞かないこのイベント。連休中はお店がクローズするので、水掛け前のスーパーは長蛇の列。バスもなくなり、タクシーの数も少なくなる。楽しさよりも不便さの方が目につくイベントだ（笑）。

とりあえず行ってみなきゃわからないので、人生初の水掛け祭りスタート。

まず朝9時前に家を出発。早くも外で子供たちがバケツを持って狙ってくる。友達とカンドー湖へ行くも、この時はすでにビショビショ。暑いのでちょうど良いが、ずっと水を掛けられるので乾く気配はない。

街中にセッティングされたステージからは、けっこうな勢いで水を掛けられる。日傘をさしてみただ、折れそうでたんだくらい。

ちなみに、このステージ上にあがる場合はチケット制。日にちやステージによって値段が違うが、40000チャット（約4000円）ってのもみかけた。ただ、水を掛けるのにこの値段（笑）。どんくらい高いかと言うと、私が以前バイトしていたBARの月収が50000チャット（約5000円）。給料が1日でほぼなくなっちゃうくらいです。

ステージだから濡れない！なんてことはなく、ステージ上でも水を掛けあっているの、結局は濡れるんです。そして爆音の中、若者が踊りまくるのです。車の量も少ないが、わざわざ水を掛けられるために回っているトラックもたくさん。ステージ下で、わざとスピードを落としたり、止めたりしてバカ騒ぎをしているのだ。

そして水掛け祭り中は、女子もお酒を飲んでいいとのこと。これが、けっこう怖い!! 飲むことに慣れてないミャンマー女子が、暑い中お酒を飲み踊りまくる。昼間なのに、いきなり倒れこみ号泣する女子もチラホラ。

もちろん男も同じだ。普段温厚な人が多いのに、お酒が入り彼らの内に秘めたものが爆発するのだろうか。酔ってケンカしているのもみかける。とにかくミャンマー人はお酒を飲むとタチが悪い!! 水掛けシーズンじゃなくても、飲み屋でのケンカはよくありますので、気をつけてくださいな。



男は女に水を掛け、女は男に水を掛ける。子供は、かまわずみんなに水を掛ける。そして、おかまは男に水を掛ける！ とゲイ友達が言っておりました。

このゲイ友達、なぜか白いショートパンツを履いてきていて、ビショビショになった結果、かわいい水玉のパンツが透けておりました。水掛けに参戦するなら、汚れても良い格好はもちろんですが、白は避けましょう（笑）。

そして、サングラス・帽子・長袖は必須です。私は初日に行きましたが、早く家に避難しました。夜になるとタクシーの数もかなり減ります。そして酔ったミャンマー人に絡まれると危険なので、早く帰ることを命令されたんです。

普段は3500チャットで帰れる距離を8000チャットというタクシードライバー。昼間でこれなんで、夜はもっと大変です。そしてビショビショに濡れたまま、冷房が効いているタクシーに乗る。普段はエアコンいれてないタクシーばかりなのに、この日は車も水を掛けられるので、閉め切ってエアコンを効かせているんです。

はい、風邪ひきましたよ。家に帰ってから、頭ガンガンしてましたから。



水掛け祭りを体験してみたの感想は、『もういっかなあ〜』です。

そんな私も連休の4日だけヤンゴンで、その後バンコクに行きました。長い連休の半分しかヤンゴンにいないけど、この満足感。いや、疲労感。救いだったのが、普通の道路では水掛けなんてやってないこと。近所でもカワイイ子供たちが朝やっていただけ。

来年もきっとヤンゴンにいるけど、この時は日本に一時帰国したいかも。お店もないし、どこにも行けないなら、帰るかあ〜って。大好きなミャンマーのイベントなんで好きになりたいけど、1回経験すれば十分かな。やっぱり日本人にとっての正月は、1月1日でしょ〜!!

## 自炊派の手料理

---

### 自炊派の手料理

旅に出たら現地の料理を食すに限る。でも物価の高い街での長めの滞在となると、さすがに外食ばかりはフトコロに堪える。そんな時は自炊。簡単で安くて美味しい自炊派の手料理をご紹介します。

#### 『すいとん風スープ』 四人分

旅中は野菜不足になりがち。そこで野菜たっぷり、満足感のあるスープのご紹介です。

#### 材料

大根……………半分  
人参……………半分  
しめじ……………一房  
ミニ白菜………2つ  
青菜………4、5本  
水……………500ml  
小麦粉………200g

#### 調味料

チキンブイヨン………2個  
白ワイン………大さじ2杯  
オリーブオイル………大さじ2杯  
塩こしょう……………少々



#### 作り方

- ①水（500ml）を鍋の中に入れ、沸騰させ、切った野菜を入れます。
- ②野菜にある程度火が通ってきたら、チキンブイヨンと白ワインを入れます。

③次に小麦粉（200g）とぬるま湯（100ml）、塩少々をよく混ぜ、生地を作ります。

④生地を食べやすい大きさにして鍋の中に落としていきます。

⑤全部入れたら、5分ほど煮て、最後に塩こしょうで味を整えてオリーブオイルをかければ完成です。



何でも好きな野菜を入れればいいので、たくさん入れてみましょう。  
もちろんお肉を入れてもおいしいですよ。

谷津 達観(やつ たっかん)

料理の道を行っていたが、突然夫婦で403日間、35ヶ国を周る世界一周の旅に！！

日本に帰ってきたかと思えば今度は仕事で香港在住決定！！

「家から徒歩一年☆たっかんとじんみの2人世界一周」

<http://ameblo.jp/worldjourney2010/>

日本人が作る本格魚介豚骨ラーメンが  
香港 荃湾に登場！！！！

# らーめん 台風。



本誌にレシピ掲載中の元バックパッカー料理人"谷津達観"が半年間準備を続けてきたラーメン店、いよいよ香港にオープン。まだ本格日本ラーメン店の無い下町 荃湾で、香港ラーメンブームの新たな台風の目となる！



\*店長『谷津達観』に『私は旅人です』と言ったら特製叉焼サービス！！

<http://www.ramen-taifu.com>

<http://www.facebook.com/ramentaifu>

香港 荃湾 大河道81號寶成樓 地下7号舖

+852 2419 7717



ワイルド・チキ……ン？

「うお！ こりやうめえ！」

僕は唐揚げにかぶりついた瞬間、思わずそう叫んだ。

そのよくよく揚がった黄金色の表面は、気品すら感じられる香りを含んだ湯気をオーラのように纏い、噛みしめると「サクッ！」という音が口内と脳内に響きわたる。

衣の下に隠れた肉からは、ジューシーな肉汁が決壊したダムの水のようにとめどなく溢れ出す。

「ぬふう……ッ……」

僕は声にならぬ声をあげながら、さながら餓鬼道に墜ちた餓鬼のように、その唐揚げを貪り喰う。

ベトナム、ホーチミンシティ。

2005年の夏、僕は友人と共にこの地を訪れていた。

僕は勝手にベトナムを「美食大国」だと定義している。ベトナムでは、美食に事欠く事がない。たとえ道端にある小汚い屋台のサンドイッチでも、出される品は目と舌を見張るくらいの美味さだ。

この国では、不味い料理を探すのが難しいくらいではないだろうか？

いつでもどこでも美味しい食事にありつける天国のような国の中にあっても、その唐揚げは群を抜いてダントツに美味しかった。

しかし……これは一体、何の肉の唐揚げなんだろうか？

ここまで食いまくって、絶賛しまくっていたのだが実は肝心の中身を知らなかったのだ。

ホーチミンの裏道を散策していたら、たまたま見つけて、たまたま店頭で揚げている唐揚げが実に美味そうだったから、つい注文して、ついむさぼり食ってしまったのである。

そこで店のオヤジに何の肉なのかと訪ねたが、中国系かと思われるそのオヤジは、英語はイエスとノーすら判らないようだ。

僕も当然ベトナム語は喋れない。

そこで、唐揚げを指差しながら紙に「肉」「?」と書いて差し出すと、ようやくオヤジは判ったようで、脂ぎった手で僕のボールペンをむんずと掴むとサラサラっと紙に「田鶏」と書き、それから僕の眼を見て「ニヤリ」と笑った。

田鶏？ 田んぼのニワトリ……？

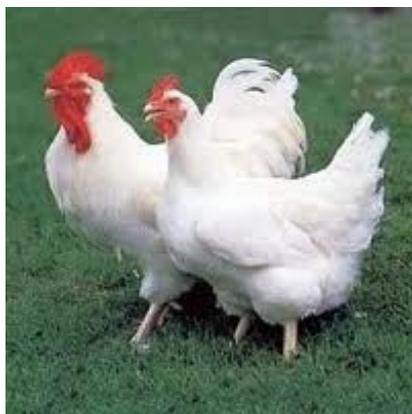
うーん、日本で言うと自然育成の地鶏みたいなモンかなあ？ そう考えると、なるほど！ この肉のプリプリ感は納得出来る！ いい唐揚げに出会えたなあ～今まで人生の中で最ッ高の鶏唐揚げだよ！ と、一人で悦に入っていた。

そして、帰国後……

あの唐揚げの味が忘れられなくて、「田鶏」をインターネットで調べてみたら……  
衝撃の事実が！

どう衝撃だったのかは……良かったら、読者の皆さんも調べてみてくださいね(笑)

ゲロゲロ……



沢井ブルース

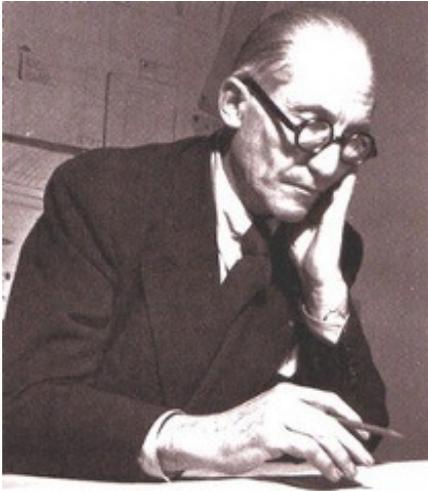
旅する武術家 空手では国際大会優勝経験アリ

現在は東南アジアを中心に放浪及び武者修行中

へたくソな文章ではありますが、気楽に読んでもらってBraliの中の「箸休め」的な存在になれたらなーと思っております

人生、酒と泪と旅と武術 梵我一如 覺有情

インドの山の手エリアを訪ねる《インド・チャンディーガル編》



ル・コルビュジエ、さん、とか言うフランスの建築家が、丸ごと造っちゃった街が何故かここインドにあるってんでね、来てみたわけよチャンディーガル。

建築のこたーよくはわからねえが、ル・コルビュジエさんの造るビルヂングはどれもうんと真っ直ぐで、だけど遊び心も忘れちゃいねえ、そんなところが気に入っててねえ。



今回一番楽しみにしてた街よ、ここは。

まーさすがインドいちハイソでリッチな街だけに、向かうバスの休憩所もこんなゴージャスなホテルでね。

トイレで掃除のオバハンにチップ払うハメになっちまった。

同乗してたりッチそうなビジネスマンに、

「先月カマゴオリの親戚んちに行ったよ」

と言われたんだがね、サッパリどこのことだかわからねえ。ググって「愛知県蒲郡市」のことだと知ったね。初耳よ。

まあそれはさておき。

インドの3大風物詩、牛・ゴミ・乞食がないこの街、渡辺篤史がお宅探訪してもしきれない程立派なお宅がズラリ立ち並んで圧巻だねえ。



歩く人間もメガネのインテリばかりってもんよ。



コルビュジェセンターの雰囲気よし。



美術館にはアートあり。



高等裁判所はため息出る程直線的だし。



かと思えばエッフェル塔と仏陀と巨大ロボットが並んでみたり、もうインドらしからぬ物がとにかく集まって、完全に異国だねえコレ。なんとかって人が、廃材で造ったロック・ガーデンてところは、客99パーセントインド人でね。これがまた、タージマハルを上回るテンションの高さでひっくり返る勢いよ。



まずチケット売り場がやたら小せえ。



人数が多すぎ。



滝とか入って滑って騒ぎすぎ。



写真撮るのに必死すぎ。



怖すぎ。(しかしインド女性がジャラジャラ腕につけてるバングルでできてんだから驚きだね！)

しかしどこに行くにもリキシャと交渉すのがめんどくせえったらありやしねえし、行きたかった宿に連れてってもらえず、そいつオススメの宿に流れで泊ってみたらなんかやな空気の部屋だったので、1泊だけして出ることにしたって寸法よ。

お次はヨガの聖地、リシケシへ向かうので、宿のおっさんにリシケシ行きのバスターミナルの場所を聞き、早朝さっさとチェックアウト。

丹精なシーク教徒のリキシャで、そのバスターミナルへ向かったはいいが、リシケシ行きは別のターミナルとのこと。最後の最後まで癪に障る宿で、さっさと出て正解よ。



拳句の果てにはこのシーク教徒、  
「追加料金はいらねえ」

ってんで、正しいバスターミナルまで乗っけてってもらったのに、降りる段階になって  
「やっぱり遠かったから倍よこせ」

なんてほざきやがる。押し問答を重ねに重ね、もうこりゃやってらんねえと、そいつの顔に札を投げつけてやったよ。

ああチャンディーガル、チャンディーガル！ 街は最高に粋だったのに、出会った人間に恵まれなかった、残念でしょうがねえ！

次回はガンジス川の上流で、心の静けさを取り戻すんでね、また楽しみにしてて頂戴！

Chibirock

Sigur RosとBeirut巔頂のメタル好きバックパッカー。チベット越えてインドで太って台湾の農家で大豆を選り分けたり。最近結婚したが放浪やめる気毛頭無し。

<http://blog.chibirock.net/>

【作者・情報提供者一覧】

テーマ「つながり」 つながり

大谷 浩則

猪突猛進のトイレットパッカー。現在世界2周目！フィリピン留学からスタート。旅のPodcast配信しています！

Podcast:ウィーリーのバックパッカーラジオ 世界一周アワー

<http://tabitabi-podcast.com/sekai1/>

Blog:ウィーリー 海外放浪×地球一周×フィリピン留学 ~実況！旅人アワー~

<http://ameblo.jp/hero23/>

Twitter:[@taniwheelie](https://twitter.com/taniwheelie)

テーマ「つながり」 再開

HANGOVER in the WORLD「ミャンマーの酒」

三矢英人

将来の夢は世界一周と言い続け早10年、『深夜特急』の沢木さんが言う旅の適齢期が到来し気が気でない毎日を送っているリーマンパッカー。世界中の遺跡、旧市街、酒を追い求め今日も次の旅に思いを馳せています。Twitter:[hideto328](https://twitter.com/hideto328)

谷川和哉 (Kazuya Tanigawa)

自分の知らない世界に触れたくて、初めてカナダに行ったのが高1。国内外問わずウロウロと。多くの街に行くよりは、一つの街でじっくりと人に触れる旅がしたい。現在は、技術者として腕みがき、翻訳ボランティアをしながら、エネルギー問題の解決方法を考える日々。誰か一緒にやりましょう。100人100旅；第1、3、5弾執筆者。100人100旅を通して東京、名古屋、京都、熊本、函館、イタリアで写真展を開催。個人的にも名古屋の旅人と共に写真展を開催する。

Twitter ; [@ponn\\_kazuya](https://twitter.com/ponn_kazuya)

旅先の変な日本語

ワールドハッカー

元バックパッカー、現在は職業ハッカーをしています。

ブログ『World Hacks!』にて海外旅行関連の情報を毎日発信しています。

<http://bit.ly/WorldHacks>

Brali Vol.1からVol.12まで12連続記事掲載・写真提供。

<http://ameblo.jp/roundtheworld200130/>

旅人からの伝言 特集 アメリカ「アメリカ アメリカ舐めんなよ！」

長谷川正吾

2011年7月より夫婦ふたりで世界一周スタート、途中3ヶ月の一時帰国期間も含めて、2013年3月末に西回りでの一周を達成して帰国。

たびたびブログ：<http://sgyk.exblog.jp/>

旅人からの伝言 特集 アメリカ 中表紙写真

naobackpacker

2012年5月から世界一周中。<http://t.co/mnYd2QC5> 東回りでのんびり周ります。旅人手帳中の人。カナダ、アメリカ、メキシコ、タイ、ネパール、韓国、中国、チベット、インド、カンボジアをウロウロ… 単独行登山好き。加藤文太郎リスペクトw 映画、韓流、写真、廃墟属性もあり

[http://twitter.com/nao\\_backpacker](http://twitter.com/nao_backpacker)

エッセイ 旅ときどき・・・ 本文&写真

鈴木モト

男性 静岡県出身。高校時代、陸上でインターハイ出場。ベストタイム10秒84 (100M)

美容師免許、管理美容師免許取得。

MIXIコミュニティー、「鈴木が書く世界一周旅行記が好きだ」2800人突破。

[http://mixi.jp/view\\_community.pl?id=3502328](http://mixi.jp/view_community.pl?id=3502328)

現在、一眼レフカメラ片手に世界を放浪中。

ブログ「地球の迷い方。～世界放浪編～」

<http://ameblo.jp/roundtheworld200130/>

一本の糸で世界をつなぐチャリの旅 本文&写真

Connection of the Children

<http://coccococ.web.fc2.com>

田澤儀高

横浜国立大学大学院音楽教育専攻一年。ピアノと自転車旅が大好き。小さい頃からチャリで遠出するのが趣味。将来は学校の先生になって音楽の素晴らしさを子どもに伝えたい。そしてユーラシア横断の旅で感じてきたことも。

加藤功甫

横浜国大大学院保健体育科専攻。ユーラシア大陸を横断後、ロングディスタンストライアスロン世界選手権出場。人のため、地球のために。ワクワクすることを。一本の糸で世界の子どもをつなぐ旅プロジェクト企画中。

一人旅卒業後、ミャンマー留学 本文&写真

yukkichalk

ビール+鯖+笑い=Happyな東京人。

教師→バリスタ→看板描き→OL後、毎年訪問でハマりすぎたミャンマーに留学中。

<http://blog.goo.ne.jp/yukkichalk>

自炊派の手料理 本文&写真

谷津 達観(やつ たっかん)

料理の道を歩んでいたが、突然夫婦で403日間、35ヶ国を周る世界一周の旅に！！

日本に帰ってきたかと思えば今度は仕事で香港在住決定！！

「家から徒歩一年☆たっかんとじんみの2人世界一周」

<http://ameblo.jp/worldjourney2010/>

エッセイたびたべ 本文&写真

沢井ブルース

旅する武術家 空手では国際大会優勝経験アリ

現在は東南アジアを中心に放浪及び武者修行中

へたくソな文章ではありますが、気楽に読んでもらってBraliの中の「箸休め」的な存在になれたらなーと思ってます

人生、酒と泪と旅と武術 梵我一如 覚有情

旅先の変な日本語

アジア漂流日記 本文&写真

Chibirock

Sigur RosとBeirut鼻屑のメタル好きバックパッカー。チベット越えてインドで太って台湾の農家で大豆を選び分けたり。最近結婚したが放浪やめる気毛頭無し。

<http://blog.chibirock.net/>

【協力】

向井通浩

JAPAN BACKPACKERS LINK 代表・運営管理者。「ハニートラップ研究所」所長。タイマッサージ依存症。ホワイト餃子。バックパッカー新聞編集長。

<http://backpackers-link.com>

<http://www.mag2.com/m/0001521550.html>

小田奉路

海外起業家's EGG主宰

<http://worldsegg.com/>

<http://archive.mag2.com/0001295311/index.html>

【広告】

カオサン東京ゲストハウス

<http://www.khaosan-tokyo.com/ja/>

Maison D'hote Amande chez noriko

<http://amandecheznoriko.web.fc2.com/>

Instituto Cultural Oaxaca

<http://www.icomexico.com/jp/index.php>

### 【編集後記 Fistera】

サクラが散ったのに、なんだかまだ寒い日がありますね。

さて、今回は2周年なんです。2周年以降はちょっと雰囲気を変えて行きたい。もう少しマガジンライクにしていきたいと思ってます。そして提案や課題提起もしていきたいです。

具体的には「体験する旅」を提案し、「個人旅行のコモディティ化」を課題に取り上げていきます。

それでは良い旅を。

### ●公式サイト

<http://brali.net>

○Brali Job バックパッカーだって働きたい。帰国後のお仕事探しサイト

<http://job.brali.net>

○Brali情報ノート 安宿のリアルでナウな情報ノートをウェブ上でみんなで作ってみんなでシェアする

<http://note.brali.net>

○旅イベントや旅ブログなど旅に関する新情報や更新情報をビジュアルで告知するサイト

<http://event.brali.net/>

そして、Facebookページもやってます！ぜひとも「いいね！」してください。

Twitterとは別の情報も掲載してますので。

<http://www.facebook.com/Bralimagazine>

さらには！NAVERまとめで旅に関することもまとめてますので、見てくださいね。

<http://matome.naver.jp/mymatome/kurinobu>

Brali Bizからセミナーを始める企画も準備中です。

「旅、インバウンド、アウトバウンド、海外」等のキーワードで独立や週末起業や副業など検討の方向けに、その方面の識者や経験者などを講師に迎え、セミナーを企画しています。

皆様のご感想などもお待ちしております。ちょっとしたメモ程度でもかまいませんので、感じたこと気づいたことなどお送りください。

mailto:bralimagazine@gmail.com

<http://brali.net/toukou#.USgiYqW-2So>

次号予告（2013年6月25日発行予定）

---

次号予告（2013年6月25日発行予定）

- テーマ「今から考えます」
- Brali Biz 「旅」×「ビジネス」
- HANGOVER in the WORLD
- 特集 インドネシア
- エッセイ旅トキドキ・・・
- 一本の糸で世界をつなぐチャリの旅
- 連載ミャンマーレポート「一人旅卒業後、ミャンマー留学」
- 自炊派の手料理
- エッセイたびたべ
- アジア漂流日記
- 旅先の変な日本語
- 個人旅行のコモディティ
- （仮称）体験する旅

## 記事と情報および写真の募集要項

2周年を迎えるため、さらにパワーアップ予定です！

次回のBraliの発行予定は2013年6月25日です。

下記の記事や情報をお気軽にお寄せください。ご応募いただきました中から厳選させていただきます。

### ★記事および情報

■特集 インドネシア →2000字以内

■テーマ まだ決まってないので決まったらTwitterやFacebookページでお知らせします。

■（仮称）体験する旅 →Braliでは、観るだけや行くだけじゃなく体験する旅を推奨します。旅で体験したことを写真とともに記事にして送ってください。例えばスペインでシェリーの注ぎ方マスター、インドで綿の収穫、モンゴルで羊の乳搾り、カナダでメイプルシロップ作り、海外日系企業で職業体験などなど。こんな体験してきたけど、どう？って連絡ください。2000字以内。

■個人旅行のコモディティ →なんだかパック旅行でもないのに均一化する個人旅行。旅人の数だけ旅があるはずなのに、なんだかみんな同じ旅してない？「語学留学」、「世界一周」、「旅ブログランキング」のいずれかの内容であなたの考えを記事にしてお送りください。2000字以内。

### ★写真

■Brali表紙用写真

特集の地域で撮影された写真を募集します。

★随時募集（掲載はいつになるかわかりません）

■旅で使えるデジタルアプリ →旅で役に立ったアプリを教えてください。

■HANGOVER in the WORLD →旅先での酒や酒場にまつわるショートコラムをお待ちしています。

■変な日本語→海外でよく目にする「変な日本語」。写真とどこで撮影したかを教

えて下さい。

■海外支援団体などの団体さん、活動PRや支援募集などBraliに無料掲載いたします。取り組みなどのPRなどにご利用ください。

■海外ボランティアツアーや海外青年協力隊参加などの体験談を大募集しています。旅行では体験できないことや、秘話などをお待ちしています。

■巻末ショートエッセイ→1000字以内のテーマは自由の旅に関する短文を募集します。旅で見たもの、感じたこと、はまったことなど。→1000字以内

記事投稿および投稿に関するご質問はメールにてお願いします。

bralimagazine@gmail.com

投稿フォーム

<http://p.tl/Mi5K>

<http://bralimagazine.blogspot.jp/2011/11/blog-post.html>

## 奥付



Brali

●公式サイト

<http://brali.net>

○Brali Job バックパッカーだって働きたい。帰国後のお仕事探しサイト

<http://job.brali.net>

○Brali情報ノート 安宿のリアルでナウな情報ノートをウェブ上でみんなで作ってみんなでシェアする

<http://note.brali.net>

○Brali Circus イベントもブログの更新も旅に関することならなんでも拡散

<http://event.brali.net>

●Facebookページ

<http://www.facebook.com/Bralimagazine>

●NAVERまとめ

<http://matome.naver.jp/mymatome/kurinobu>

●mixiページ

<http://p.mixi.jp/brali>

●twitter

<http://twitter.com/2moratorium>

### 【Braliの指針】

旅人は、旅をすることにより、その国や地域の人や文化に触れ、体験し、多様な価値観を知り、違いを理解し、享受することができます。

また旅に出てみるのが、日本や居住地などの良し悪しや文化、社会、諸問題を見つめなおすきっかけになります。

そんな機会と経験を無駄にせず社会に活かす旅人の可能性を信じています。

旅人を増やし、旅に出る回数を増やし、旅に出る時間を増やすことを目的の一つとします。

そのためにも旅で得た情報や経験（インプット）を表現（アウトプット）する場と機会をメディアで提供し経験した人とは共有し、経験していない人へは追体験をしてもらいます。

また旅での経験を社会に活かす（例えば仕事や起業あるいは社会貢献やボランティアなど）仕組みづくりを行ないBraliも社会に寄与します。

編集：くりはらのぶゆき

発行：くりはらのぶゆき